

# 介護福祉士の取得は 就職と進学…どっちが有利？

「進学は2年、就職は3年、たった1年しかかわらないから、就職した方が得だよ…」って言われることも多いですが、**これは大きな間違いです。**国家試験の受験日は毎年1月の最終日曜日。

よく間違えやすいのは**就職後3年目に受験できると思ってしまうこと。**受験資格の要件は「実務経験3年」ですので、実際は就職して3年たったあと…**つまり早くて4年目の1月の受験となります。**



また、2016年度の国家試験から半年以上の短期養成課程「実務者研修」の修了が義務付けられましたが、それまで**毎年約15万人いた受験生がこの要件が加わって約9万人と激減し、フルに働きながら資格を取ることの大変さが如実に現れた結果**となりました。

さらに、今の介護現場は高い技術と豊かな知識が求められることから、**無資格で介護現場に就職した方の約7割は3年以内に退職しています。**

実務者の国家試験合格率は新制度(2016年度から)になってから約70%。しかし、退職しなかった3割の中の70%の合格となりますので、無資格で介護就職した方の全体で考えると**実務者の実質的な合格率は20%程度**にとどまります。

それに対し、**介護福祉士養成校では2年目に国家試験が受験できることはもちろん、合格率も養成校全体で約90%**となっています。退学者もほとんどいませんし、しかも、2020年度の入学生までは経過措置の期間(準備期間)となっていますので、それを考慮すると介護福祉士の取得率はほぼ100%です。

また、介護福祉士養成校を卒業して介護職に就いた方はほとんど退職していません。

※本校では働きながら学校に行く奨学金制度(就職進学)も用意しています。  
詳しくは本校ホームページをご覧ください。

